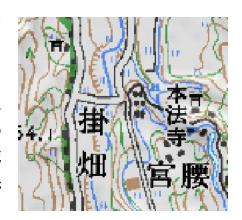
## 掛畑

## カケハタアカガイの甲 一掛畑一

県道198号線(桐谷下笹原線)を八尾市街地から久婦須ダム向けて進んでいくと、掛畑地区に出ます。掛畑地区の本法寺橋付近の久婦須川で初めて採集され、新種として論文に掲載された化石が5種類あります。このあたりの地層は、黒瀬谷層と呼ばれ、約1600万年ほど前に堆積したものと考えられています。この時代の八尾は熱帯~亜熱帯性のマングローブが繁茂する内湾性の湿地帯であったことが、オヒルギの花粉化石の研究によって明らかになりました。 久婦須川へは、地区公民館付近の農道から降りることができます。河原の部分があまりないので、水量が少ない時期を選んで観察に出かけるとよいでしょう。



## 掛畑で初めて採取された化石

掛畑で初めて採取された化石には、次のようなものがあります。

- ・カケハタアカガイ
- ・ムカシセンニンガイ
- ・スタックヒルギシジミ
- ・ヤマネヒルギシジミ
- ・ヤツオタマキビ



カケハタアカガイ



スタックヒルギシジミ

特にヒルギシジミやセンニンガイの化石が産出したことから、このあたりは熱帯のマングローブ帯ではないかと考えられました。さらに、花粉化石の研究から、この考えが正しいことが証明されました

## ヒルギって何?

スタックヒルギシジミなど、名前についている「ヒルギ」は、植物に由来します。「ヒルギ」は種子が樹上で発芽する種を総称したもので、マングローブの仲間です。現在、国内では「オヒルギ」「メヒルギ」「オオバヒルギ(ヤエヤマヒルギ)」の3種類が見られます。このようなマングローブの生える低湿地に生息していたことから、貝の名前に植物名がつきました。

現在の日本でのマングローブの北限は鹿児島県鹿児島市(旧喜入町)で、主に沖縄地方に分布してい

ます。 掛畑のあ たりは、昔は亜熱 帯~熱帯の植物が 生い茂る土地だっ たのです。



オヒルギ



メヒルギ



オオバヒルギ (ヤエヤマヒルギ)